



美しい景色をいつまでも

山田 夏希 ntk-yamada@ctie.co.jp

株式会社建設技術研究所



1. はじめに

今回『新 会員の自慢』を担当させていただくことになりました、株式会社建設技術研究所環境部の山田と申します。

前号で執筆された熊田勇斗様、そして編集委員長の岡浩平先生よりご依頼を賜りました。貴重な機会をいただき、ありがとうございます。社会人としての経験も浅く、拙い文章ではございますが、若手の一人として温かい目でご覧いただけますと幸いです。今回は自己紹介を中心に執筆をさせていただきます。

2. 私の経歴について

私は“ウイスキー知多”で知られる愛知県知多市の出身です。自然がのどかな場所で、伊勢湾に沈む夕日が美しい海の近くに住んでいました。両親が登山好きであったこともあり、幼いころから自然や森、生き物が大好きで、中学の頃には将来自然環境の保全にかかわりたいという漠然とした思いを抱くようになりました。大学では自然豊かな場所で学びたいと考え、北海道大学農学部森林科学科へ進学しました。

大学・大学院では生態系管理学研究室に所属しました。研究テーマを決める際、哺乳類と植物のどちらを研究対象とするかで悩んでいた際に、指導教官であった森本淳子先生からの言葉で、幼いころから漠然と抱いていた自然環境を守りたいという思いが明確になったことを覚えています。研究では、2018年の北海道胆振東部地震で発生した表層崩壊地をフィールドとして、植生回復に関する研究を行いました。学士課程では、柵工や防鹿柵、自然侵入促進工など様々な緑化方法を組み合わせて崩壊地の緑化を行い、その処理の特徴の比較を行いました（写真-1、参考1,2）。修士課程では、崩壊後放置



写真-1 緑化を行った調査フィールド様子

（左写真：2019.5 緑化当時）

（右写真：2024.11 植物が侵入し回復が進んでいます）

されているところ、造林されたところ、緑化されたところの斜面を対象として植生調査、環境調査を行い、生態系サービスの評価を行いました。これらの研究成果を緑化工学会で発表させていただいたことが、私と緑化工学会との出会いとなりました。

卒業後は建設コンサルタントに就職しましたが、この業界を志望する動機となった出来事があります。修士課程の研究調査中、私の調査地が誤って林道に改変されてしまったのです。現地を訪れた際に、調査地が林道になっていたことには大変驚きました。その崩壊地は、立地や環境条件のポテンシャルが高く、生物多様性の観点からも非常に価値のある場所でしたので、当時は非常に残念に感じたことを覚えています。この経験を通じて、生物の重要性や場としての価値を説明できる人になりたいという気持ちが生まれました。就職活動では非常に悩みましたが、自分が学んだことを活かしながら、多様な生物や自然環境に関わりたいという思いから、（株）建設技術研究所に入社しました。

3. 株式会社建設技術研究所について

私が勤務する（株）建設技術研究所は建設コンサルタント業界に分類され、インフラにかかる計画、調査、維持管理等を担う会社です。その中でも私は環境部に所属し、生物調査や環境保全措置の検討を中心に業務を行っています。業務の中で“緑化”自体を主とすることは多くありませんが、環境配慮の一環で緑化の提案や自然植生の調査を行う機会があります。近年は、ネイチャーポジティブの潮流の中で遺伝子レベルでの在来種保全の重要性が認識されつつあります。これまで培ってきた知識を活かして、より持続可能な環境づくりに貢献していきたいと考えています。

4. 日本緑化工学会との関わり

当学会へは先述の通り、研究発表や大会への参加等を通じて関わるようになりました。初めての学会発表も論文の受理も当学会であり、非常にお世話になっている学会です。社会人になってからは、学会を通じて緑化に関する最新の知見を学ぶとともに、多くの方と交流する機会をいただいている。

緑化工学会は多くの人の出会いがあり、とてもオープンな学会だと感じています。日々の業務の中で抱いている疑問を投げかけると、プロフェッショナルを紹介してくださる方々の人脈があり、また様々な知識を伝授していただける、とても素晴らしい学会だと思います。現在は、先日の学会で教



写真-2 初夏の燕岳



写真-3 八甲田山スキー滑走時のシュプール



写真-4 Kings Throne Peak (カナダユーコン) での登山

えていただいた緑化に関する本を購入し、読み始めたところです。読み進めるほど新たな疑問が生まれ、解決してはまた立ち止まることの繰り返しだけで、この過程が成長につながっていると感じています。緑化工学会をきっかけとしたつながりやご縁を今後も大切にしながら、いつか私も皆様のように知識を提供できるよう日々精進していきたいと思います。

5. 趣味について

まじめな話が多くなってしまいましたが、ここで少し趣味について紹介をさせていただきます。私は外で体を動かすことが好きです。大学の時に山系の部活に所属しており、登山、クライミング、ボルダリング、山スキー、沢登り、カヤックなどをやっていました。今は山スキーと登山がメインです。自然の中での時間の移り変わりを見ることが好きで、心動く景色があれば写真も撮ります（スマホですが…）。こうして振り返ると、私は自然の中でも、多様な生態系に裏付けされた“景観”そのものが好きなのだと思います。

本州の山は社会人になってから登り始めましたが、標高が高く景色が変化に富んでいること、山小屋がたくさんあり、登山の歴史を感じられるところに魅力を感じています。今年の夏はあまり登山へ行く機会がなかったので、冬シーズンには時間を見つけて、登山数を稼いでいきたいと思います。

6. おわりに

最近仕事の中で新たな発見がありました。それは“群落”という概念です。先日の緑化工学会大会でも群落に関する話題が多く取り上げられ、また万博の現地視察の際にもたびたび群落についての議論が交わされていましたが、私はその論点を十分に理解できずにいました。しかし先日、業務の中で植物調査を行ったときに、自然植生はおおむね一定の群落に収束し、その群落を見ればその土地の成り立ちや遷移の方向が分かるということを学び、ようやく学会での議論の理解につながりました。

私が所属している建設コンサルタント業界では、業務の多くが1年程度の工期であり、同じ案件に継続的に関わることはなかなか難しいのが現状です。その一方、多様な業務に携わり、多くの関係者・技術者と協働できる点にこの仕事の面

白を感じています。日々の業務を大切にしながら、得られる知識を一つひとつ積み重ね、ときには分野を横断しながら理解を深めていかなければと思います。そして、私が大好きな美しい景色がいつまでもあたりまえに見られるよう、尽力していきたいです。

私自身、まだまだ経験も浅く、緑化工学会の偉大な先輩方の足元にも及びませんが、会員の皆様には、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

参考資料

- 1) 北海道大学×SDGs はやきた子ども園の森プロジェクト 北海道胆振東部地震からの小さな復興.
<https://sdgs.hokudai.ac.jp/approach-to-sdgs/our-actions-and-proj/pj-3183/>
- 2) 山田夏希・森本淳子・中村太士・孫田敏（2021）北海道胆振東部地震で発生した表層崩壊地における初期の植生回復と地域資源活用緑化. 日本緑化工学会誌, 47(1):3-8.
- 3) 山田夏希・森本淳子・中村太士（2023）積雪寒冷地における表層崩壊地の植物の種多様性向上に貢献する環境要因の解明. 日本緑化工学会誌, 49(1): 9-14.
- 4) 株式会社建設技術研究所ホームページ.
<https://www.ctie.co.jp/>